

159

2019. 7. 21

長崎郵趣



捲土重来、武漢展
伊藤純英



China2019 国際切手展大金銀賞 受賞

さる2019年6月11日(火)から6月17日(月)まで中華人民共和国武漢市の国際博覧会場で開催された標記切手展において「長崎の外国郵便」が何回目かの大金銀賞を受賞しました。金賞まであと少しの88点はこれで4回目となります。日本からは13作品(チャンピオンクラス・文献部門除く)が競争部門に出品された。

1993年全日展で金銀賞を得て、2001年PHILANIPPON東京で開催された国際切手展でV。以来Vを何度かと6度目のLV。

上写真：受賞した作品

左写真：グランプリの永井正保さんと。

捲土重来、武漢展

伊藤 純英

6月8日 佐賀空港にたどり着くと、キャンセルされていた。操作ミスでキャンセルされることはよくあるらしい。とにかく今日の便には乗れないことを理解する。この時点で12時過ぎなので余裕を持って福岡発18時の東方航空便を予約。深夜、上海大众空港宾馆にチェックイン。もうすっかり常宿となった上海プートン空港内のホテルである。

6月9日上海浦东空港から武漢天河国際空港に。

武漢到着後地下鉄にて移動。武漢は地下鉄路線が発達しているので、移動は地下鉄が便利。黄鶴楼の近くに宿舎を借りているので、武漢展会場までは、乗り換え2回で12駅目。宿舎はAirBnBで妻の好みで決めたメルヘンチックな部屋。ブランコやボールプール、ホームシアターまである。

6月10日（月）武漢展開催前日

設営作業の日。今回の設営作業は、手慣れた中国人側のスタッフが、テキパキと行動してくれたのが一番の印象。自作品も展示できた。

13:00過ぎに全ての展示が終了。中国人側のスタッフと記念撮影。

オフィシャルホテルの1階で、日本人4人で、昼食を共にした後、別れる。出品者とは、賞の決定まで一切接触できないとのことなので、明日、14:00開会後に参観の後は、武漢市内観光の予定。地下鉄を出て、少し歩いたら、じつと



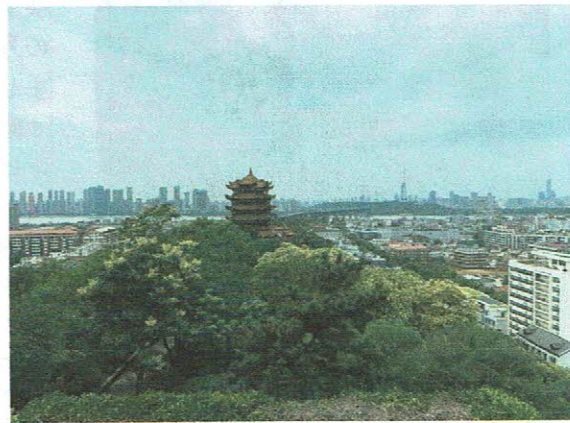
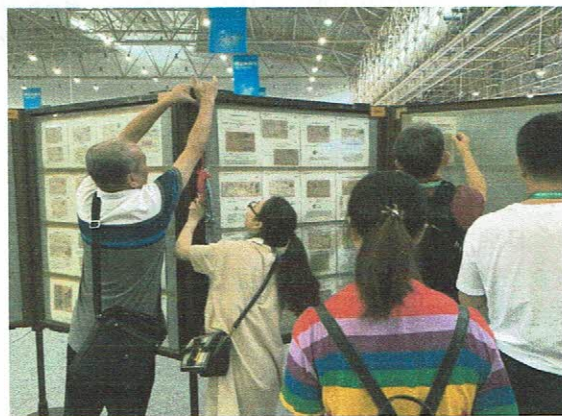
りと汗ばむ暑さ。宿舎に帰ると、近くのスーパーで買って来たサクラamboを食べていた。

6月11日（火）CHINA2019武漢切手展初日

いつもの国際切手なら、出品者のIDカードがあれば、開会セレモニーにも参加できるのだが、どうも今回は、参観者IDカードはないようだ。一般客と同じ14:00からの参観になるらしい。ここ数日の疲れもあるので、宿舎で家族4人でのんびりしていたら、14:00にも間に合いそうにない時間になったので、近場を散歩。

6月12日（水）CHINA2019武漢切手展2日目

今日こそは切手展会場に行きたいが、妻の行きたい「戸部巷」と私の希望の「黄鶴楼」に行くことになった。804バスで降りると、左手に黄鶴楼。入り口まで歩道橋を歩いてたどり着く。入場券は一般70元、小学生と60-65歳は35元。入場券には黄鶴楼の印面がついた絵葉書付き。黄





鶴楼に登ると、中2階は土産もの売り場、2階から4階まで参観可能。5階は参観禁止になっていた。東側の白雲閣にも登る。公園内には、岳飛広場や毛沢東詞亭、落梅軒（劇場）を見て、次に移動。

移動中にトロリーバスを発見。回廊になっている歩道橋を渡ると、戸部巷。屋台が多い。一通り見終わって、店内に入り、遅い昼食。エビのフンドゥンと特色麺。エビの小籠包。こちらの名産品の焼物。帰りは712バスで帰る。

6月13日（木）CHINA2019武漢切手展3日目

体調不良。4人とも。特に私がひどい。昨日共通して食べたのは、戸部巷のエビの小籠包。それが原因だろうという結論に達した。私がひどいのは2個食べたから。それでも午前中、長春の従姉妹の銀行口座に送金に行く。今回の上海-武漢往復航空券と武漢9泊分の宿泊費である。とにかく絶飲食で布団を被って寝る。部屋のブランコ、子どもたちが毎日乗る。妻も乗っていたので、私も昨日乗ってみた。それが原因か、天井から綱の杭が抜けてしまった。修理の人を呼んで修理してもらっている様子を布団から眺めていた。帰るとき、日本語で、サヨナラ、と言っ

てくれた。

さて、中国でのFIP主催の世界切手展は10年ぶりとか。この10年間に切手展はあったがFIAP展だったようだ。10年前は、ちょうど2007年から2年間の任期が切れて、日本の生活に復帰している時期だと予測され、とても慌ただしい時期のはずだったので、出品のノミネートをしていなかった。しかしその後、もう一度2年間続ける気があるなら、もう一度中国派遣の手続きおよび試験を受けることができると長崎県教育庁から連絡があったので、再度手続きおよび試験を受けて、2年間の任期が伸びたという経緯があった。面接試験だけは免除された。

ということで、単身開催場所の洛陽まで出かけて行った。

<https://star.ap.teacup.com/philately/586.html>

当時の日記を見て思い出した次第。CHINA 2009は中華人民共和国60周年記念切手展で、オリンピック並みの開会セレモニーが全国ネットで放映されたほど。

夕方、体調が良くなったので、近くのスーパーまで散歩する。

6月14日（金）CHINA2019武漢切手展4日目

引っ越しの日。この部屋で武漢5泊したことになるが、人気の部屋なので、9泊全部というわけにはいかなかった。本日は同じマンションの4階の部屋に引っ越しの日。12時までこの部屋は使え、14時から新しい部屋が使えるそうだ。荷物を入り口にまとめて置いておくと、掃除の人が新しい部屋に運んで置いてくれるそうだ。11:50に部屋を出るとき、次の入居の若い女性が荷物とともに待っていた。

地下鉄2号線宝通寺から次の中南路で4号線に乗り換え、6号線の国博中心北駅で下車。

やっと切手展会場で作品を見ることができた。日本からの作品以外に中国から出品者の年賀切手の伝統郵趣作品。フレーム番号22035-22039。郵便史作品にも中国からの出品、32042-32046日本明治期郵便印。こちらも目玉となるアイテムが皆無で、噴飯ものは、切手も消印も偽物という驚くべきアイテムが珍品として展示してあったリーフ。こういうのは、日本からの審査員が



当然指摘してあるはずだと思われる。B3会場が昼食用のテーブルが並べてある場所、B4-6が切手展会場と、とにかく広い。昼食の弁当のレベルが値段の割に低すぎるので、他へ行きたいというので、とりあえず、子供に会場のケーキ屋でケーキとフランクフルトを食べさせ黙らせる。

取り急ぎ、日本からの出品物がちゃんと展示してあるのを確認。

まだまだ見足りないが、妻の調子もよくないし、子どももお腹が空いたというので、地下鉄国博中心北駅から4号線、2号線と乗り継いで帰る。地下鉄宝通寺駅を出たところから、宝通寺の塔が臨める。その近く的美食商城で食事をしていくが、私は食欲ないので、抹茶とバニラのソフトクリームを食べた。4階の新しい部屋にはちゃんと荷物も運んであり、部屋の雰囲気はオーソドックスな部屋。

6月15日（土）CHINA2019武漢切手展5日目

深夜結果を見る。4度目の88点。「それがお前の限界か！」とは、教員時代生徒に、机の前に



書いて勉強しろと言っていた文言。自戒の言葉でもある。また新しい日々が今日から始まる。

6月16日（日）CHINA2019武漢切手展6日目

体調が万全ではないが、出かける。妻子はウォルマートへショッピング。会場で賞がついているのを確認。賞のついた作品をもう一度見直す。某オークションハウスで、出品者だよ、と言ったら、フレーム番号とタイトルを聞いてきた。賞は？というので、88点のLARGE GOLDだよと答えると、コングラッチュレーションと握手を求めてきた。今回初めて心から祝福してもらったような気がした。17:00過ぎると店仕舞いタイム。日本郵政のブースに顔を出すと、お二人ともパルマレスに参加することになったとのこと。

今回日本からの出品作品13点のうちLG1、G8、LV3、LS1という内訳。大銀の1作品は2作品出品者なので、人別に見ると、金賞以上9人、大金銀賞3人ということになる。しかも、大金銀賞の3人も89、88、88点と金賞に僅差の点数なのだ。10年前の洛陽展とは大違いのレベルの高さ。質量ともに、である。しかも、私以外の大金銀賞、大銀賞作品は、5フレーム作品なので、今回の切手展作品は、8フレーム作品=金以上、5フレーム=大金銀以下、除く伊藤作品、という図式が成り立つ。最後にグランプリの候補の審査員の票集計の発表。見事、永井さんが国際グランプリに輝いた。永井さんのテーブルでは、永井さんを囲んで記念撮影しようとしている、永井さんが私を手招きして誘っていただいた。優しさに心の中で落涙した。ひっきりなしに永井さんの周りには写真撮影の人が絶えない。帰り際に取材を受ける永井さんの姿。最後のチャンス、





この機会を逃したら、二度とない、と終わるのを待つ。無事2ショットを撮ることができた。

6月17日（月）CHINA2019武漢切手展7日目最終日

審査員との対話の日。いくつかの作品終了後にやっと私の作品の前で。まず、英語が1行も理解できなくて、どんなに稀少なアイテムだろうと、その価値が全くわからない。そのため treatment と knowledge が壊滅的に低い。ただ、only one known とか one of two known とか稀少なものがいくつも含まれているので（レアレティ）、どうにかこの程度の点数になっているようだ。だから、切手展によって85-88点のばらつきがあるのは、日本からの審査員のアシストがあった時は88点になるし、そうでない時は85点になるとの説明だった。では、どうすればいいかというと、英文の作り直しはさることながら、構成を根本からやり直す必要がある。ルート別と言うものの、現状では宛先別になっている、例えば、スイスルートというものはこの時代に存在しない。現代だったら、長崎からスイスまで直行便があるかもしれないが、この当時は、どこかを經由してスイスに行っているわけで、その最初に行った場所が大事なのだということ。以下、個別的に井上審査員から2時間以上に及ぶレクチャーを受けた。今回オープンクラスで金賞受賞した自作品の前で、文字の大きさ、文字の高さの統一、具体的なリーフ作りのノウハウを伝授していただいた。今でも言っていたはずだが、と言われても自分なりの受け止め方であり、根本的に受け止め方が間違っていたわけだ。具体的に現状作品を踏まえた章と節の案まで私の説明を元に作っていただいた。井上審査員に励まされながらここまで作品の出来が来たわけであり感謝して感謝したりない。

日本チームの撤収の時間が15時から18時に変更になったので、あまり無理されなくてよろしいという内藤コミッショナーのご配慮で、撤収を免除してもらった。

6月18日（火）CHINA2019武漢切手展終了翌日

上海への移動の日。吉祥航空の上海便は上海の大雨のため欠航、中国南方航空13:50の便に48,000円ほど追加で乗ることができた。でも、この便も大雨の影響で出発が遅れるとのインフォメーション。結局1時間ほど遅れて15:00の出発。

なんとか、空港内にある大衆空港賓館にたどり着き、しばし横になる。19時過ぎたので、4月の上海行きの際に子どもたちが気に入っていた小籠包の店に行くことにした。地下鉄の終電終了で途中からタクシーでホテルまで。

明日の便は18:10なのでホテルには12時まで滞在予定。不思議なことに、上海に着いたら、嘘のように体調が良くなった。

6月19日（水）日本帰国

昨日の夜のせいで、12時のチェックアウト直前まで滞在。搭乗してみると、早かった分座席も前の方で、2列目の座席。時間通りに出発し、2時間足らずで、福岡空港到着。国際線ターミナル前の駐車場は1日1,000円なので、12日分12,000円。

